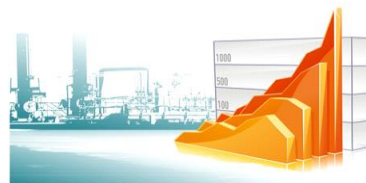


# ぎふ経済レポート



令和元年9月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 9月24日～26日を中心に実施し、10月11日に作成。

# 景気動向

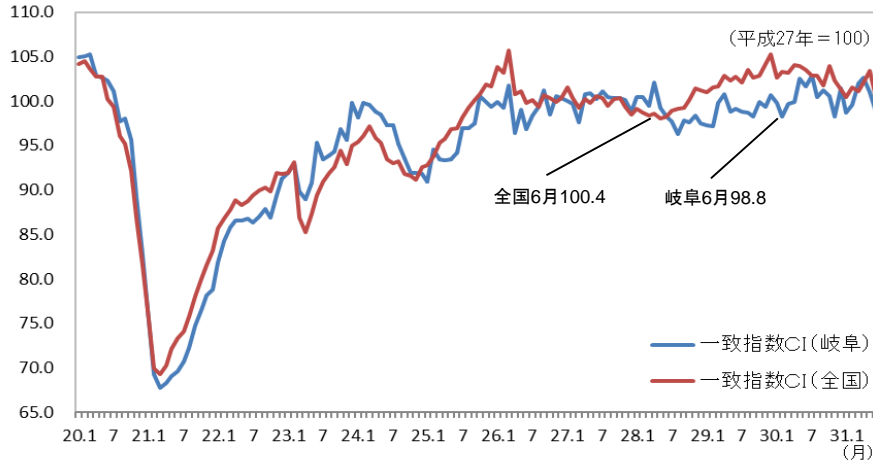
○6月の景気動向指数(一致指数)は、98.8で前月比▲2.2ポイントと悪化した。

○8月の県内中小企業の景況感は、▲35で前月比4ポイント改善した。

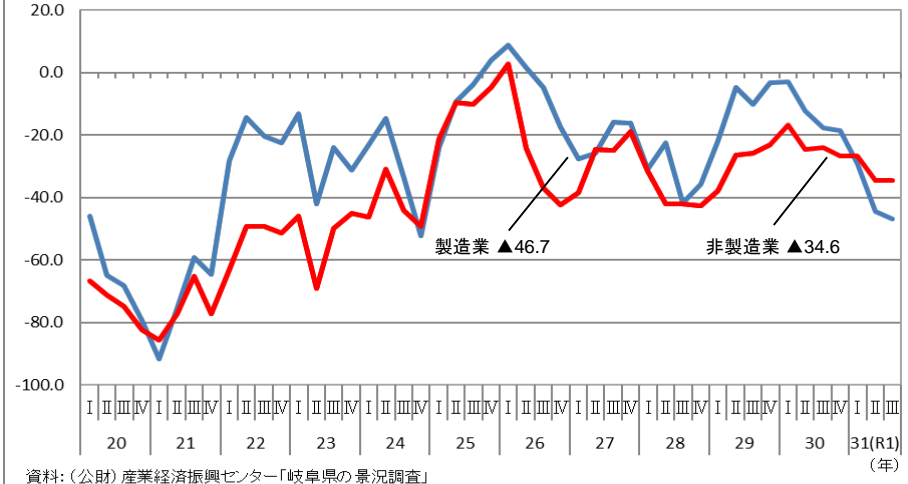
○7-9月期の景況DIは、製造業で▲2.4ポイント、非製造業で▲0.1ポイントと悪化。

○同売上高DIは、製造業で▲5.3ポイント、非製造業で▲3.5ポイントと悪化。

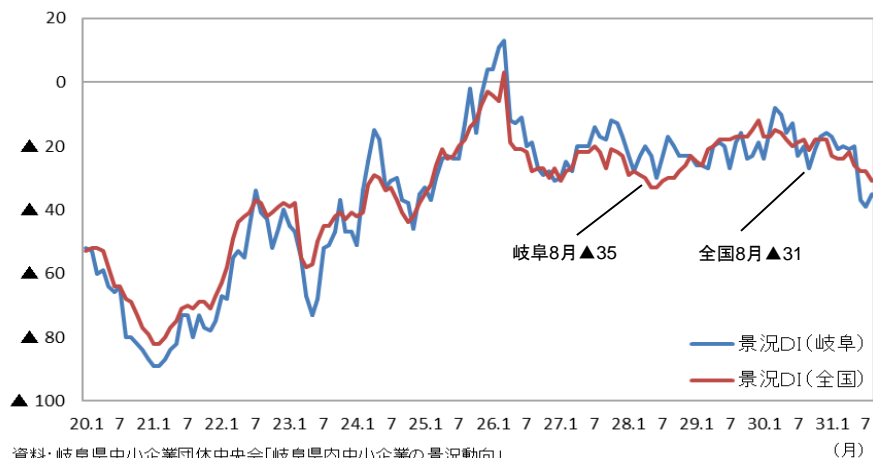
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



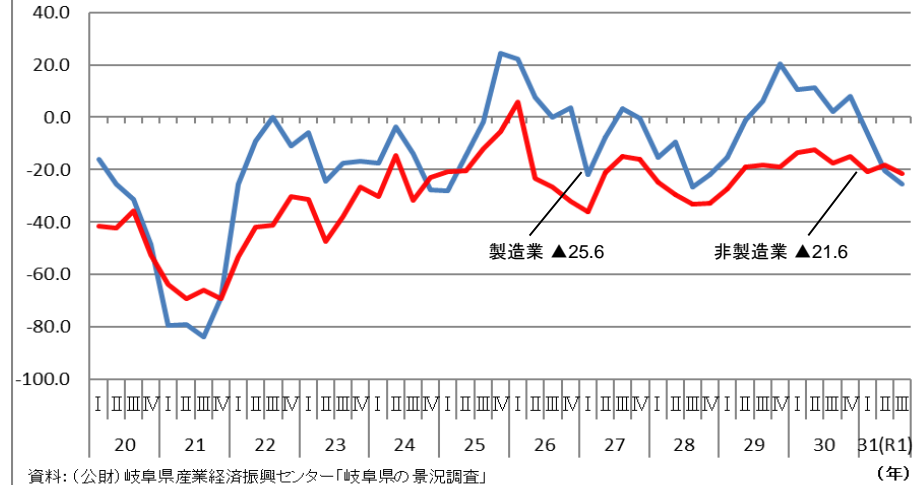
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

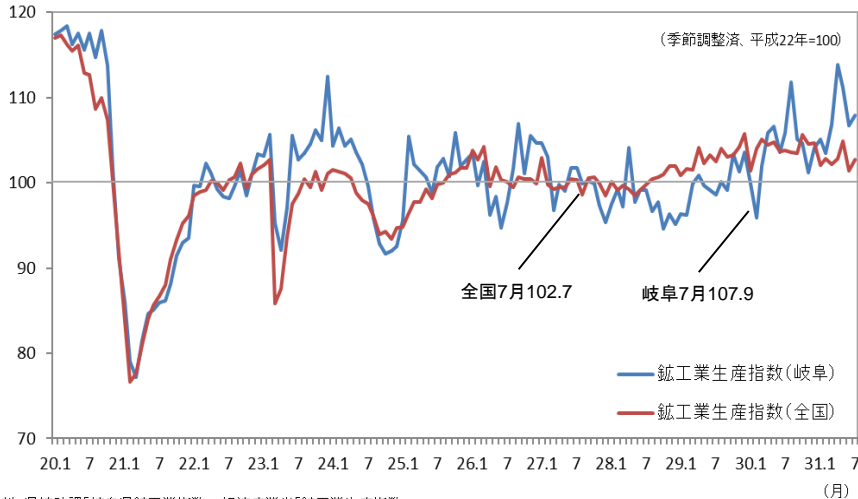


# 製造業

- 7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、107.9で前月比1.1%と上昇した。
- 電気機械や食料品で前月比減少したものの、比較的多くの産業で同上昇した。

- 7月の主な産業の指数は、電気機械で前月比▲17.2%、鉄鋼業で同▲2.4%と減少したものの、はん用機械で同6.8%、金属製品で同4.3%増加するなど、多くの産業で上昇した。

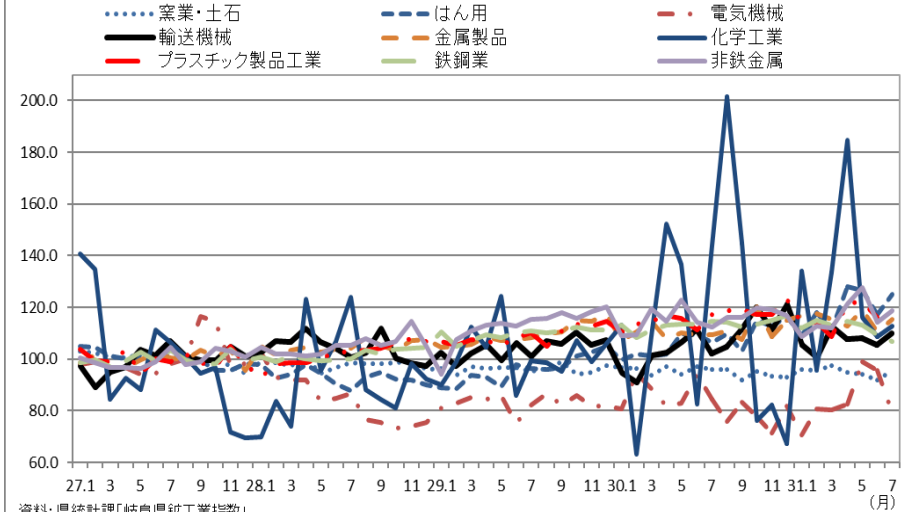
鉱工業生産指数の推移



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業生産指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



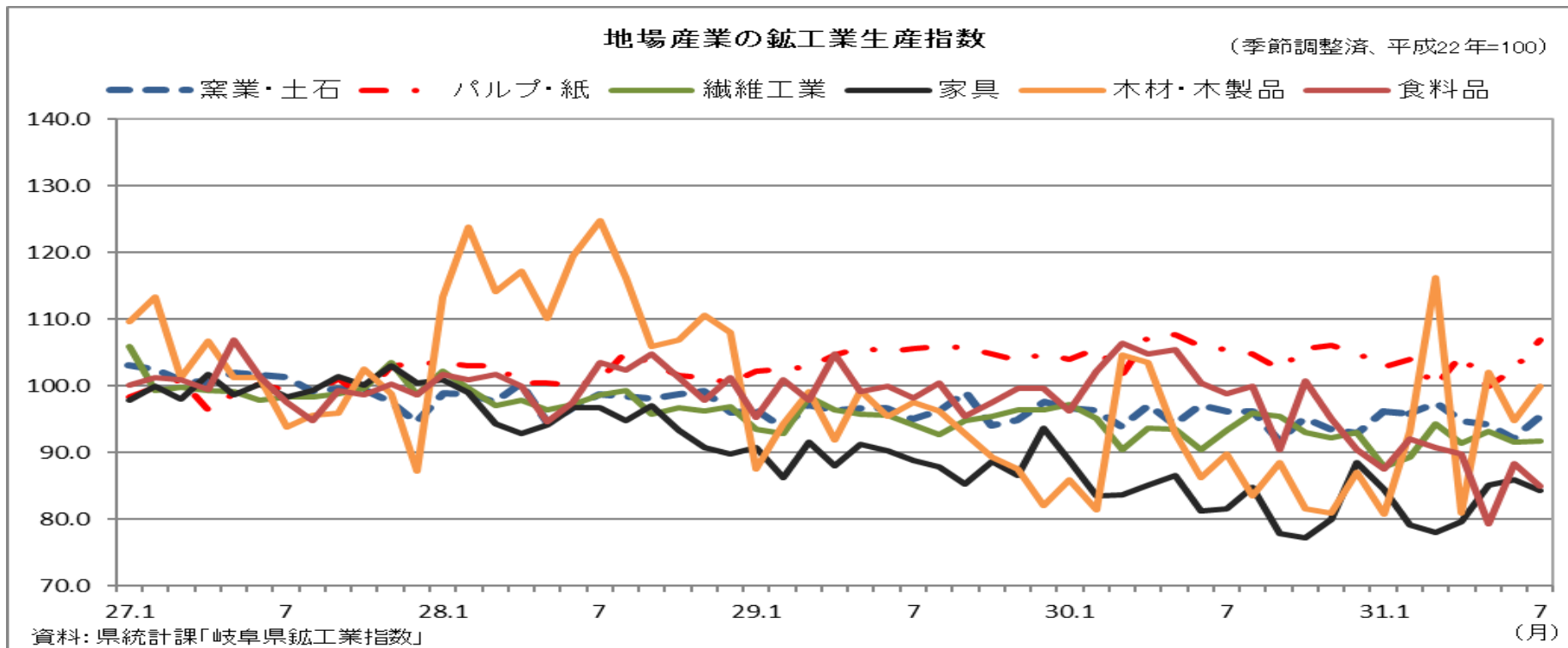
資料: 県統計課「岐阜県鉱工業生産指数」

## 現場の動き

- ◆自動車関連は例年並みだが、航空機関連の受注に波があり、今期決算は前期を下回る見込み。(輸送用機械)
- ◆自動車関連においては、海外向け自動車部品の出荷が落ち込んでいる。(輸送用機械)
- ◆9月の生産計画については、予定より上振れて推移している。(輸送用機械)
- ◆工作機械について、ここ最近売上の減少が続いており、前年同月比5%の減少となった。今後も、小型大型を問わず、工作機械全体で受注が減っていく可能性がある。(生産用機械)
- ◆全体的な受注環境は、月ごとに徐々に厳しさを増している状況。(生産用機械)
- ◆売上高は、前年同月と比べ減少しており、今期の売上は前期と比べ約15%減少する見込み。(はん用機械)
- ◆現在は、他機種スマートフォン部品や自動車のエンジン部品等、受注の幅を広げつつある。(金属製品)
- ◆売上は伸びているものの、設備投資と人件費の高騰により、営業利益は伸び悩んでいる。(プラスチック製品)

## 製造業-2

○7月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、食料品で前月比▲3.9%、家具で同▲1.9%と減少したものの、木材・木製品で同5.5%、パルプ・紙で同4.2%、窯業・土石で同3.7%、繊維工業で0.1%上昇した。

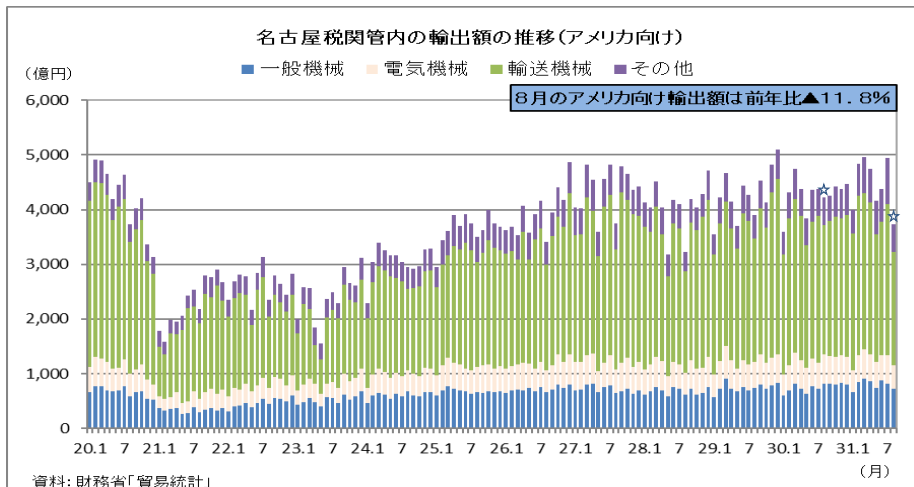
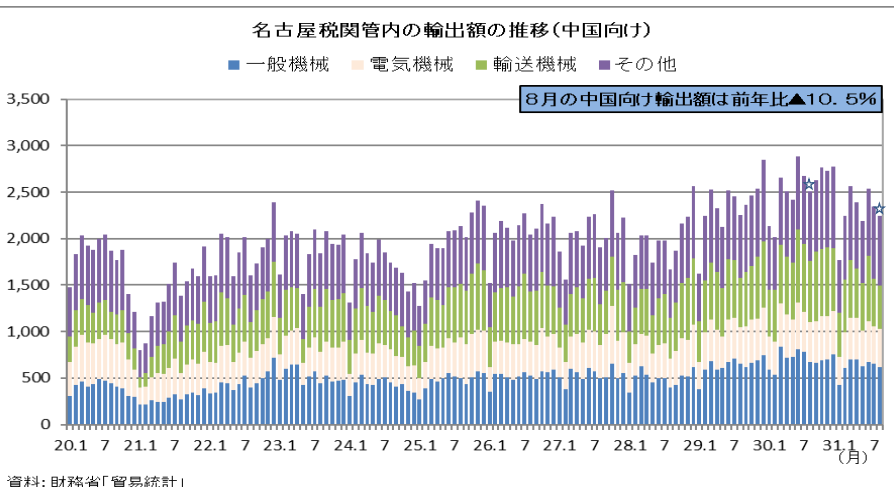
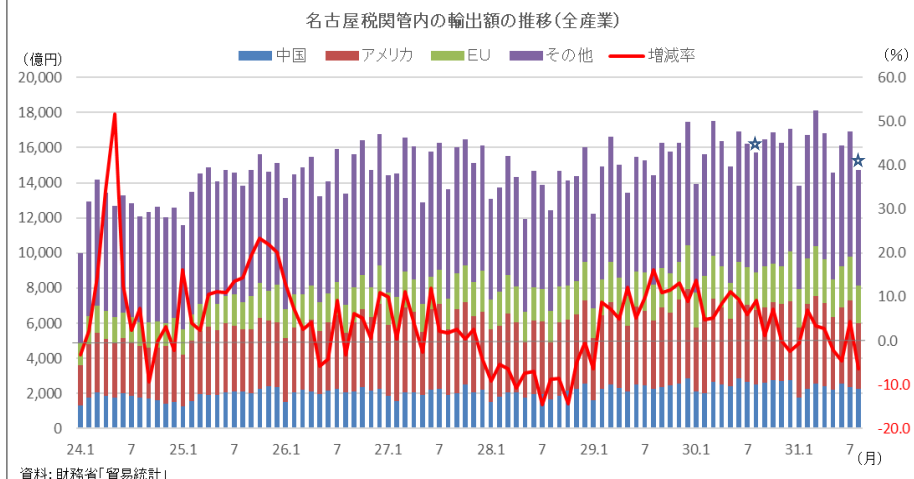
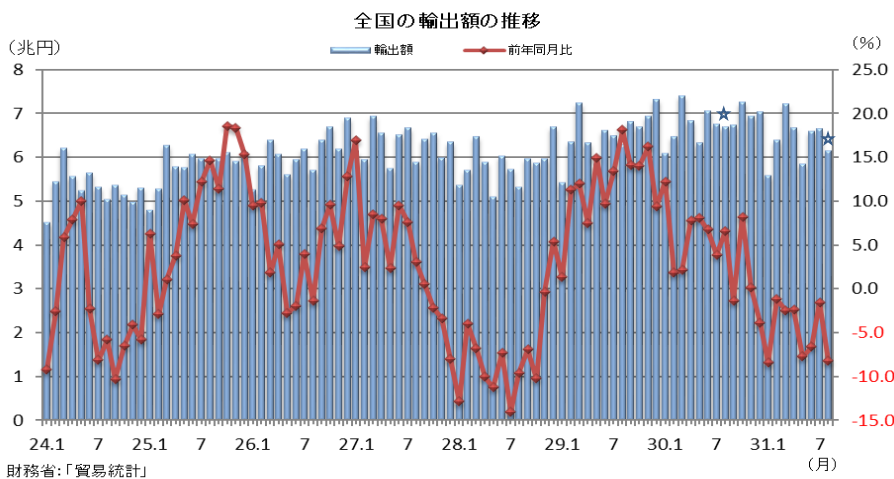


### 現場の動き

- ◆オリンピックの開催に向けて、その波及効果としての特需もあったが、収束を迎えた。10月以降、閑散期に入ると、更なる厳しさが予想される。(アパレル)
- ◆前年に比べてほとんどの企業の売上が落ちている。陶磁器の需要減少が大きな要因と感じている。(陶磁器)
- ◆職人はいるものの、下請け企業が少なくなっており、深刻な状況となっている。(刃物)
- ◆ネット販売が台頭してきている影響で、業界として厳しい状況が続いている。(食品)
- ◆働き方改革については、会社として対応しており、懸念事項はない。(紙)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 8月の輸出額(全国)は、6兆1,412億円の前年同月比▲8.2%と9ヶ月連続で減少となった。
- 8月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆4,738億円で前年同月比▲6.3%と減少し、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比▲10.5%と減少し、6ヶ月連続で前年を下回った。
- その内、輸送機械で前年同月比▲30.2%、一般機械で同▲8.3%等と大幅に減少した。
- アメリカ向けは、全体で同▲11.8%と減少し、8ヶ月ぶりに前年を下回った。



## 為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆為替については、一時的な円高局面も見られたが、今のところ特に影響は出ていない。(輸送用機械)
- ◆サウジアラビアの原油不安による影響は、3~4ヶ月先に出てくる恐れがある。(輸送用機械)
- ◆原材料費や燃料価格の高騰が続いており、製造メーカーへの影響が大きい。当社の受注に対応してもらえるメーカーが減少することで、せつかくの販売機会を逃している。(陶磁器)

## 米中貿易摩擦の影響について

- ◆米中貿易摩擦の影響はなく、売上、利益ともに好調。技術的な企業努力により、大手企業との取引に耐えうる生産体制が構築されたと考えている。(輸送用機械)
- ◆建設機械向けでは、急なキャンセル等の中国マーケットの影響が大きなマイナス要因となっている。(金属製品)
- ◆中国での内需の落ち込みにより、前年同月比の売上は20%程度減少。新製品での売上増加分が、既存製品の落ち込みでかき消されている。(金属製品)
- ◆中国経済の停滞を反映してか、中国から東南アジアへ製造拠点が移る動きがある。今後その動きが強まれば、受注が増える可能性はある。(生産用機械)

## 消費増税について

- ◆消費増税前の駆け込み需要は、100万円以下の消耗品等には多少あったが、全体の売上に比べてみれば、微々たるもので、目立った動きがなかった。(生産用機械)
- ◆事業計画において消費増税を踏まえた生産計画を策定したが、特筆した事象は見られなかった。(輸送用機械)
- ◆主要取引先が策定した10月以降の車両生産計画では、消費増税による駆け込み需要の反動に伴う減産が示され、厳しくなる見込み。(プラスチック製品)
- ◆駆け込み需要は見られなかった。(アパレル)
- ◆9月に入り、駆け込み需要が相当見られた。先々月、先月は見られなかったため、急な変化となった。(木工)

## 業界トピックス

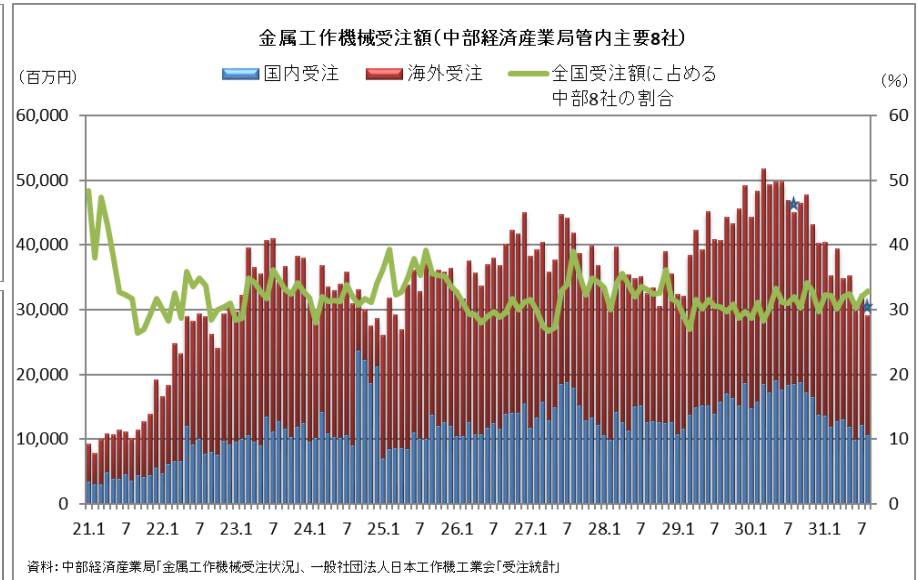
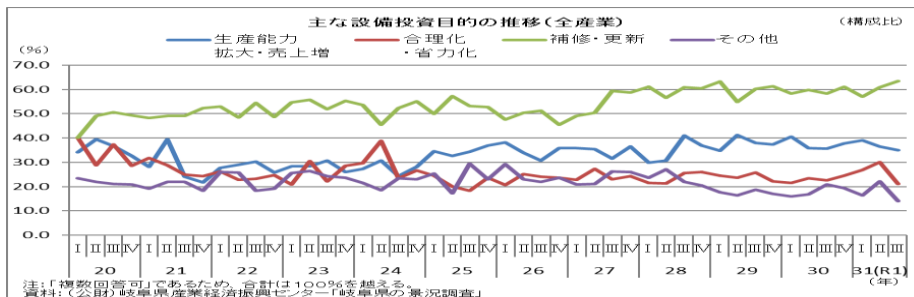
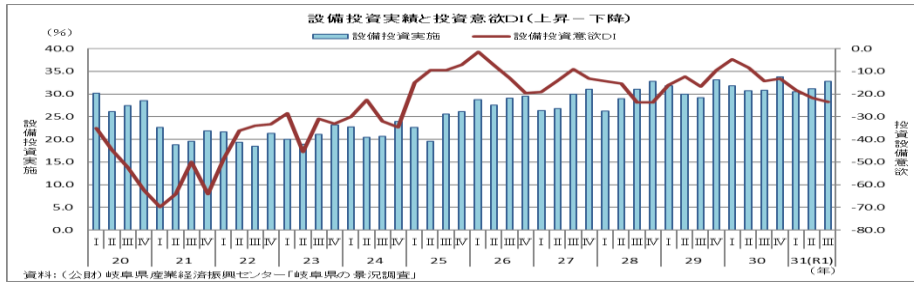
- ◆自動車のEV化は急速に進むと考えており、これについては懸念している。(輸送用機械)
- ◆日米通商協議では、自動車部品の関税撤廃には至らず、残念に感じている。(輸送用機械)
- ◆ドイツ経済が下向きとなっており、ドイツ自動車メーカー関連の受注は3~4割減となっている。(輸送用機械)



# 設備投資

○7-9月期の設備投資実施実績は前期比1.6ポイント上昇、設備投資意欲DIは同▲1.7ポイントと低下。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が前期比▲1.5ポイント、「合理化・省力化」が同▲9.1ポイントと低下するも、「補修・更新」は同2.6ポイント上昇した。

○8月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲35.3%と10ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では全ての工業向けが不調で、同▲42.9%と9ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲29.9%と10ヶ月連続で前年を下回った。



## 現場の動き

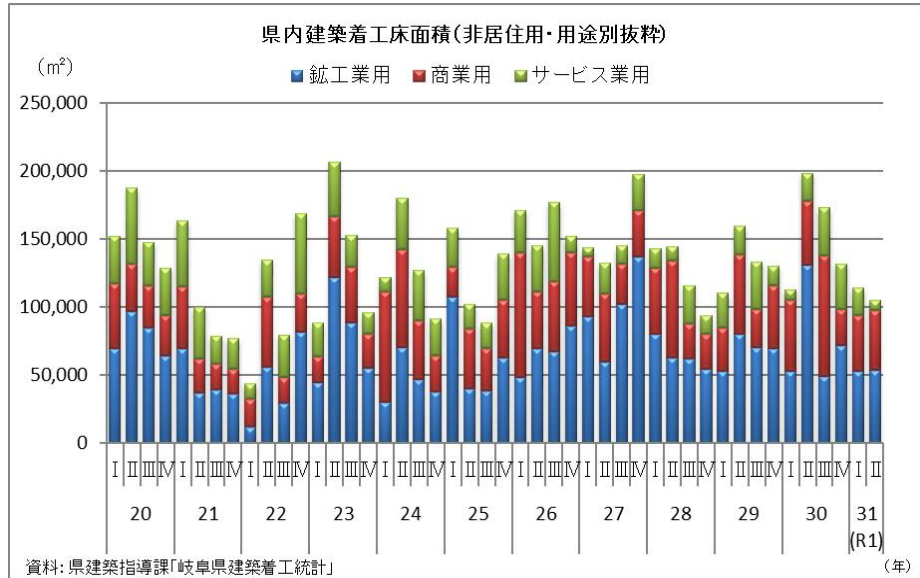
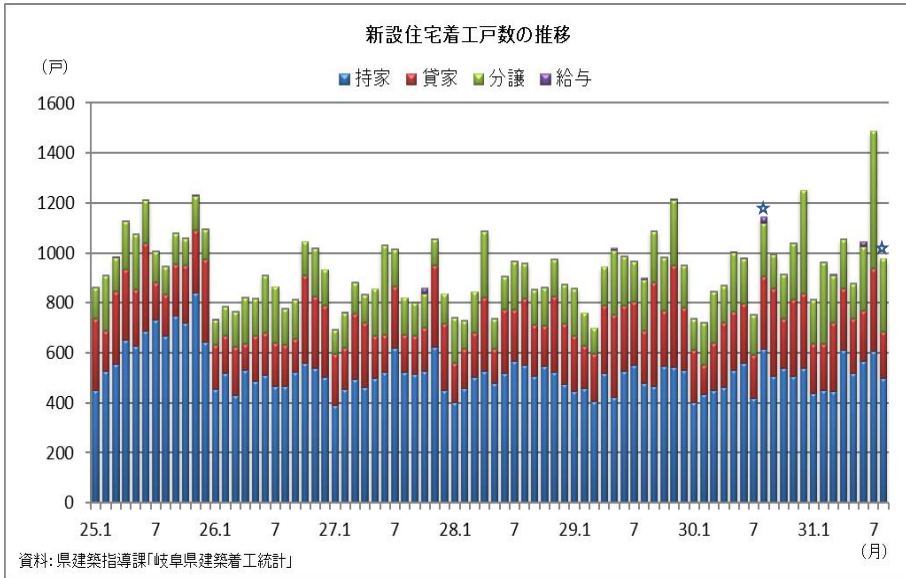
- ◆消費増税前のタイミングで、検査機器を1台導入した。(輸送用機械)
- ◆自動化を進めるため、ロボット付きNC旋盤を1台購入した。(輸送用機械)
- ◆新たな工場用地が、本社工場周辺に見つかった。工場新設後は、既存設備を移設して稼働する。(はん用機械)
- ◆設備の老朽化のため、数億円程度の設備更新を実施する計画がある。(生産用機械)
- ◆物流関係で効率化を目的とした投資があった。(金融)
- ◆更新自体は継続して実施されているが、新規については、事業者も二の足を踏んでいる状況。(金融)
- ◆更新を中心に実施されている中、投資意欲そのものがものすごく冷え込んでいるわけではない。(金融)

# 住宅・建築投資

○8月の住宅着工戸数は、前年同月比▲12.8%と3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○分譲で前年同月比36.3%と増加したものの、貸家で同▲34.7%、持家で同▲19.3%と減少するなど、全体としても前年同月を下回った。

○4-6月期の建築着工床面積は、鉱工業用で前年同期比▲59.0%、商業用で同▲7.3%、サービス業用で同▲62.8%と減少したことから、全体としては同▲47.2%と9期ぶりに減少に転じた。



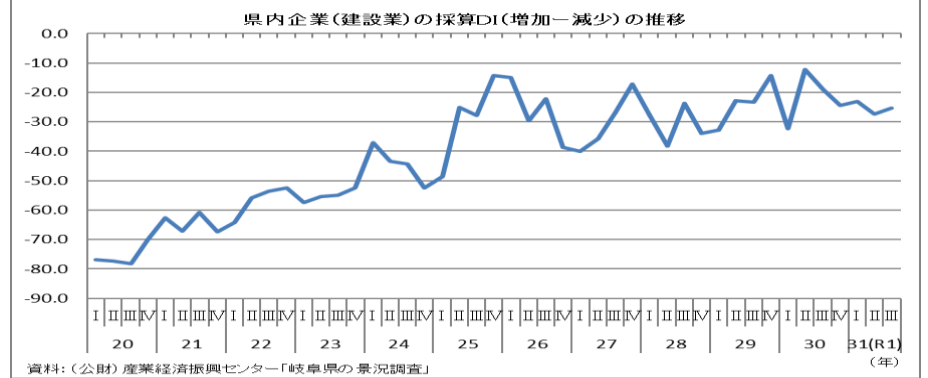
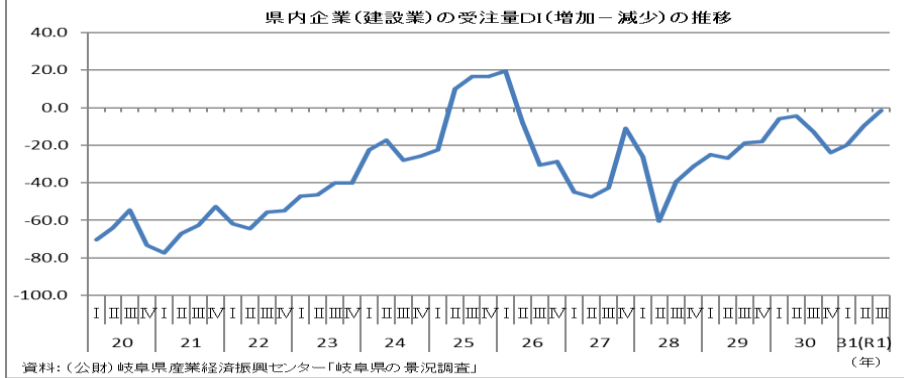
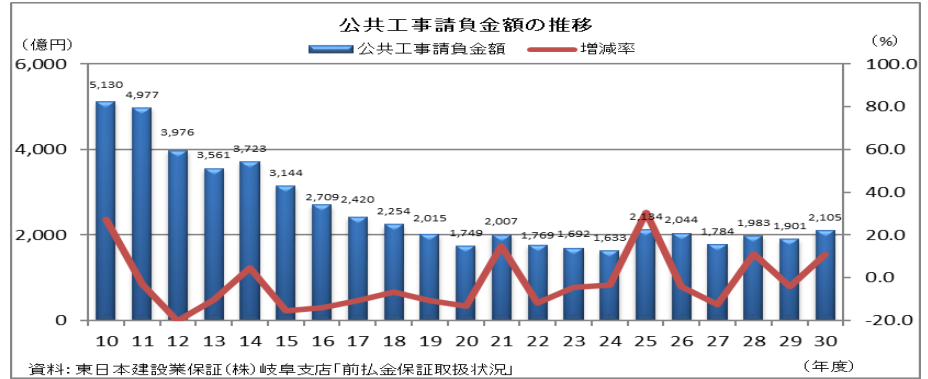
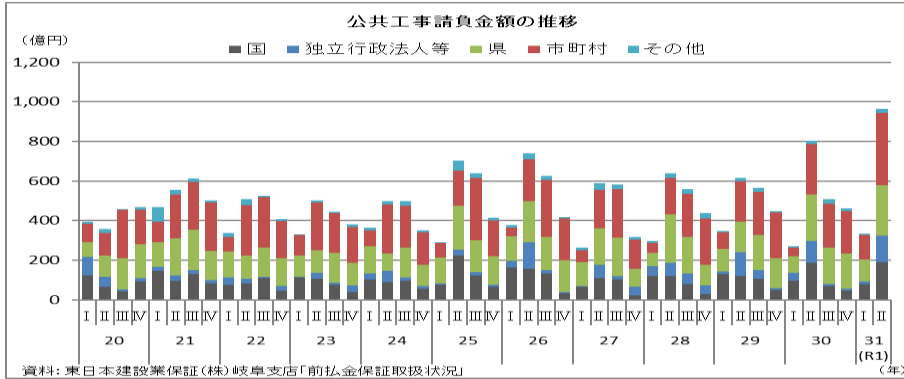
## 現場の動き

- ◆9月の業況は良くないが、天候が安定しており働きやすい環境であった。(木材加工)
- ◆輸入材の価格が下落している。来年は更に下がるとみられ、国産材の価格動向が注目される。(木材加工)
- ◆住宅契約状況は、昨年同時期と比較して60%と落ち込みが続いている。展示場への来場者も減少しており、受注に向けた営業スキル、会社の対応の向上が要求されている。(住宅建設)
- ◆鋼材関係の資材だけは、オリンピックの影響からか入手しづらくなっている。(住宅建設)
- ◆入荷量は増加したが、引き続き売り先の需要が少ないため、出荷量は減少傾向。(木材市場)
- ◆原木の流通量は前月から引き続き順調だが、原木価格は横ばいとなっている。(森林組合)



# 公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、市町村で前年同期比43.7%、その他で同42.2%、独立行政法人で同18.1%、県で同7.8%、国で同3.3%増加し、全体で同20.2%増加した。
- 県内建設業の7－9月期の受注量DIは前期比7.9ポイント改善、同採算DIは同2.0ポイント改善した。



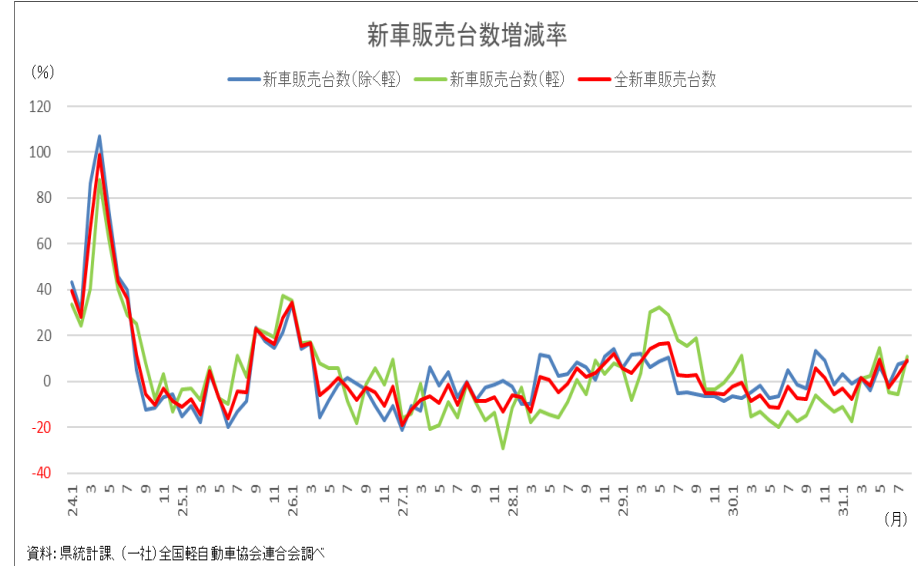
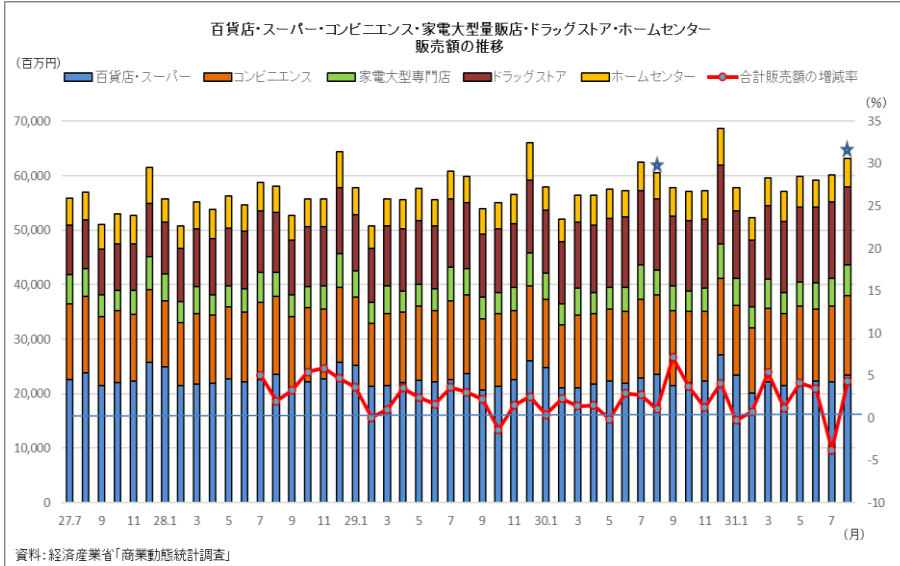
## 現場の動き

- ◆国発注の工事のボリュームが大きく、全体として受注量が増えている。
- ◆国において、ICT施工を加点対象とする動きが加速しており、事業者の取組みが求められている。そのため、ICTに関連する投資を計画的に実施している企業もあると聞いている。
- ◆技能者の賃金体系を、完全月給制に変更し、休暇日数も4週6休から4週7休へ変更した。
- ◆受発注者双方が協力して、工事を進めていかなければならない。(以上、建設業者)

# 個人消費(流通・小売)

○8月は百貨店・スーパーで前年同月比▲0.5%と減少したが、家電大型専門店と同25.1%、ドラッグストアで同9.3%、ホームセンターで同7.8%、コンビニで同0.2%増加し、全体で同4.4%と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

○8月の新車販売(除く軽)は、前年同月比8.6%と2ヶ月連続で前年同月を上回り、軽自動車は、同10.7%と3ヶ月ぶりに前年を上回った。  
○合算では同9.4%と、2ヶ月連続で前年同月を上回った。

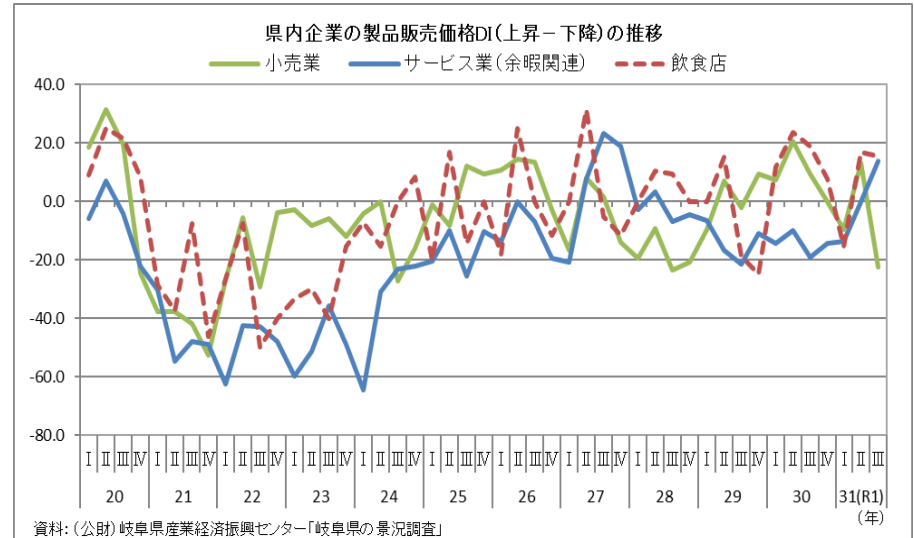
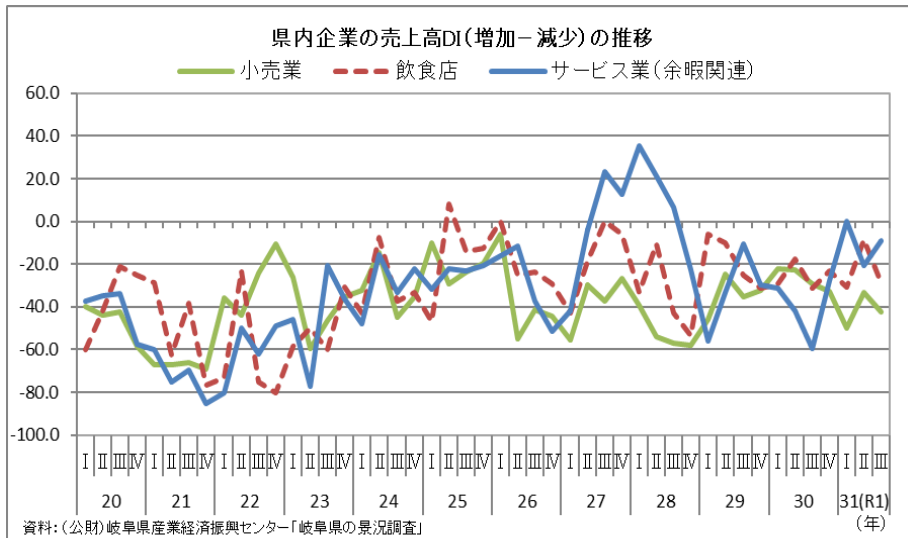


## 現場の動き

- ◆売上は前年同月比110%、来客は同104%。消費増税の駆け込み需要のため、客単価が500円程度増加。
- ◆キャッシュレス決済の実証実験を9月末まで行った。決済手段が増え、客数も増加した。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比110.2%、来客は同102.7%。9月27日の金曜日から翌週月曜日にかけての4日間は、オイルショック並みの駆け込みがあった。化粧品、消耗品は昨年比200%となった。
- ◆今回の消費増税に対する駆け込み需要は、直前に発生したため、予想以上の品切れが発生した。
- ◆衣料品、生活用品に対するキャッシュレス決済では、ポイント還元を実施する。(以上、各務原市内大型商業施設)
- ◆9月の駆け込み需要は、当初の想定通り、前回に比べて弱い。一方、10月以降の反動減は確実に発生するため、トータルはマイナス基調で継続するものと見ている。(岐阜市内スポーツ用品店)

## 個人消費(流通・小売)－2

- 7－9月期の売上高DIは、小売業で前期比▲9.2ポイント、飲食店で同▲20.3ポイントとそれぞれ悪化したものの、サービス(余暇関連)では同11.6ポイントと改善した。
- 同じく販売価格DIは、小売業で前期比▲35.7ポイント、飲食店で同▲1.3ポイントと悪化したものの、サービス業(余暇関連)で同13.7ポイント改善した。



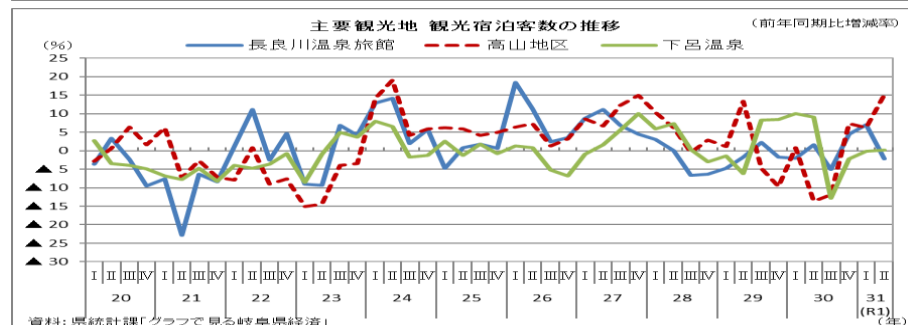
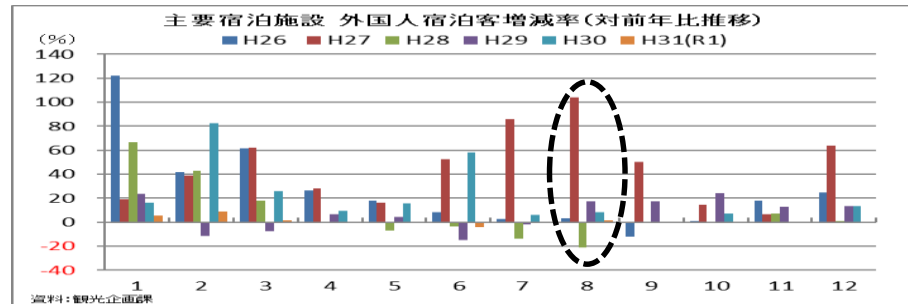
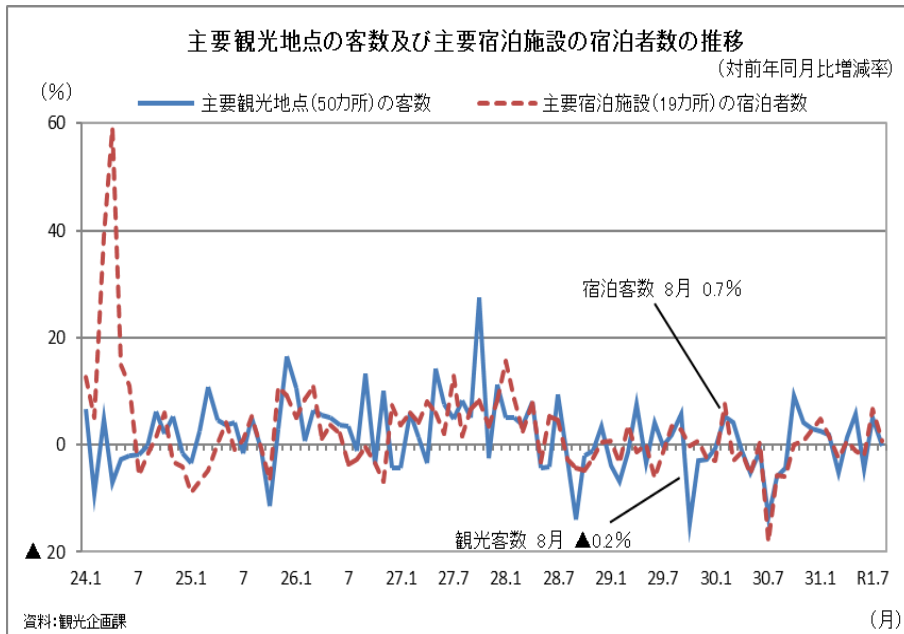
### 現場の動き

- ◆和菓子店の売上は前年同月比87%、飲食店で同96%、ブティックで同91%。台風の影響が大きかった。
- ◆駆け込み需要は感じない。キャッシュレスも、経営者が高齢の店舗は導入していない。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比80%。駆け込み需要はなく、キャッシュレス決済導入も見送った。
- ◆和菓子店の売上は同101%。原材料や包装資材が増税により値上げとなるため、販売価格も若干値上げする。
- ◆例年と同期間でイベントを実施したが、天候の影響からか、昨年より若干マイナスとなった。(以上、大垣市商店街)
- ◆酒類販売店の売上は前年同月比90%。ポイント還元により、お客様も店舗を選別すると思われる。
- ◆時計・宝石店の売上は同105%。消費増税の駆け込み需要からか、売上は増加した。(以上、多治見市商店街)
- ◆家電量販店の売上は前年同月比100%。家電組合はポイント還元事業を有効活用すべく、講習会を頻繁に開催する等、力を入れている。大型店は利用できないため、中小企業としては効果を期待している。
- ◆人手不足感はあるが、その都度パート従業員で対応している。(以上、高山市商店街)

# 観光

○主要観光地の8月の観光客数は、前年同月比 ▲0.2%と減少し、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。主要宿泊施設の宿泊者数は、前年同月比0.7%増加し、2ヶ月連続で前年同月を上回った。

○8月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比1.5%増加し、4ヶ月ぶりに前年同月を上回った。  
○4～6月期の主要観光地の観光宿泊者数は、前年同期比で高山と下呂が増加した。

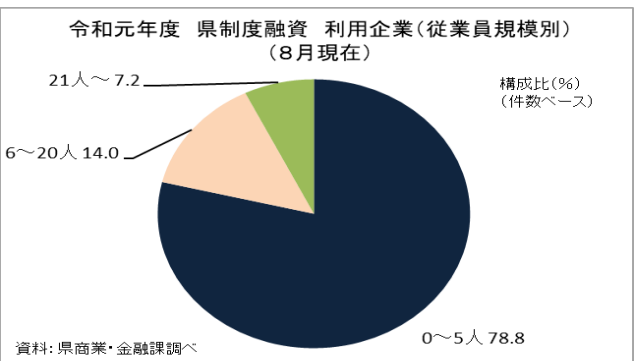
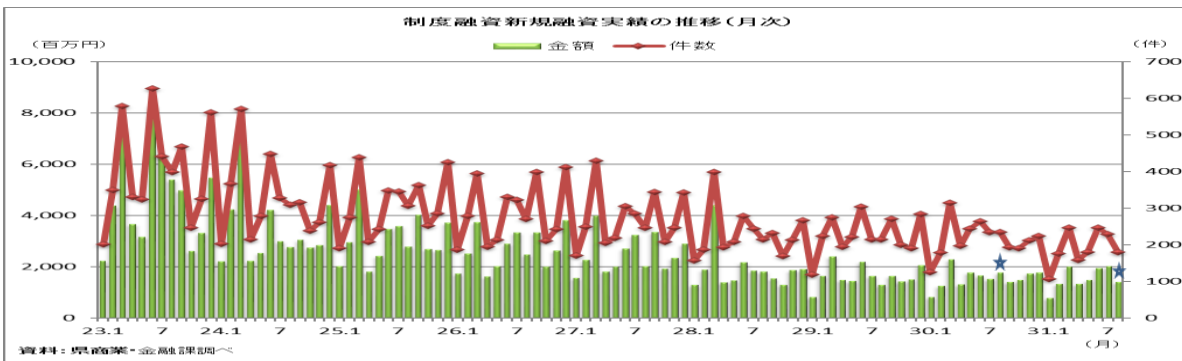
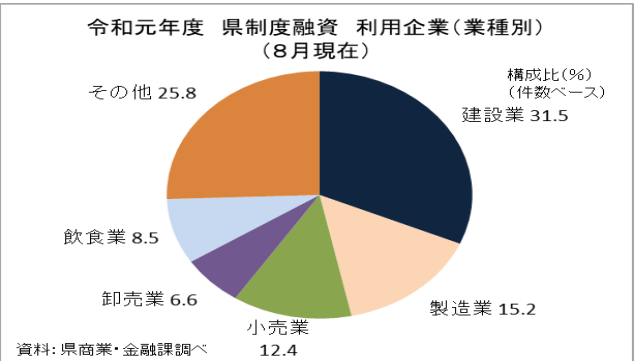
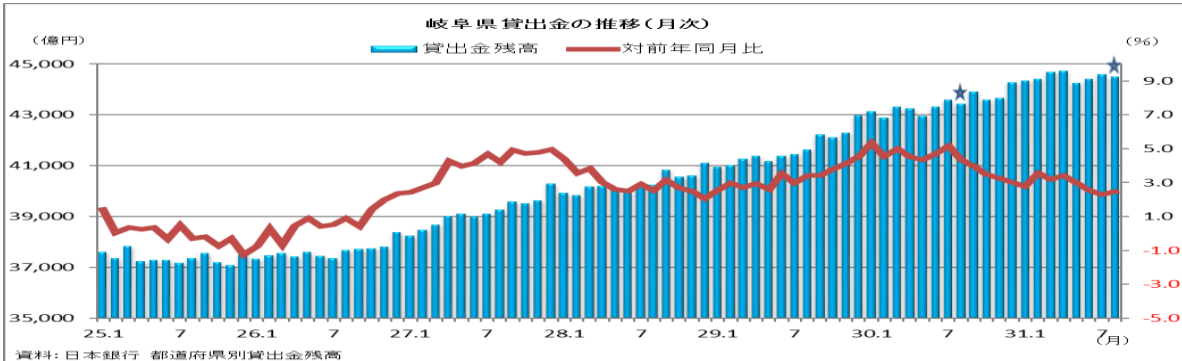


## 現場の動き

- ◆インバウンドが減少している。(岐阜市内、大垣市内、高山市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆中国からのお客様は安定して集客できている。(岐阜市内、多治見市内の宿泊施設)
- ◆韓国からのお客様が減少している。(多治見市内、飛騨市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆お客様が休日や連休に偏っている。(高山市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆インターネットによる予約が好調。(大垣市内、多治見市内、高山市内の宿泊施設)
- ◆外国人の採用については、しばらく様子を見たい。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 8月の岐阜県貸出金残高は、4兆4,514円で前年同月比2.5%とプラス基調が続く。
- 8月の制度融資実績は、金額が1,417百万円で前年同月比▲20.1%と3ヶ月ぶりに減少した。件数は180件で同▲23.1%と、9ヶ月連続で減少となった。
- 従業員規模別では、5人以下の事業所が全体の78.8%を占めている。



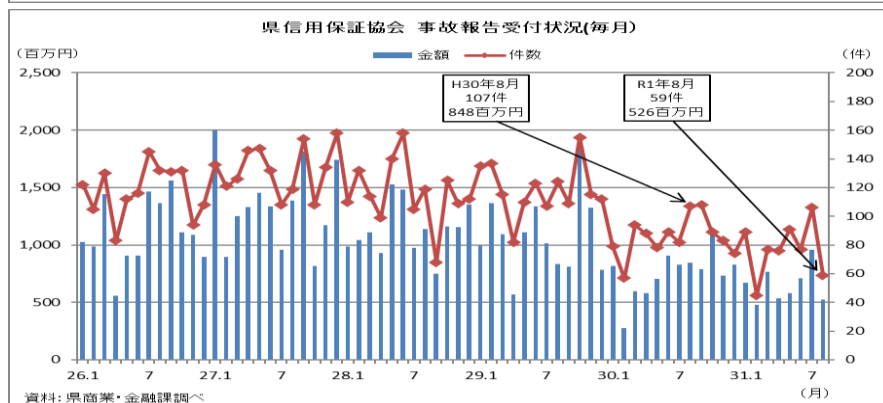
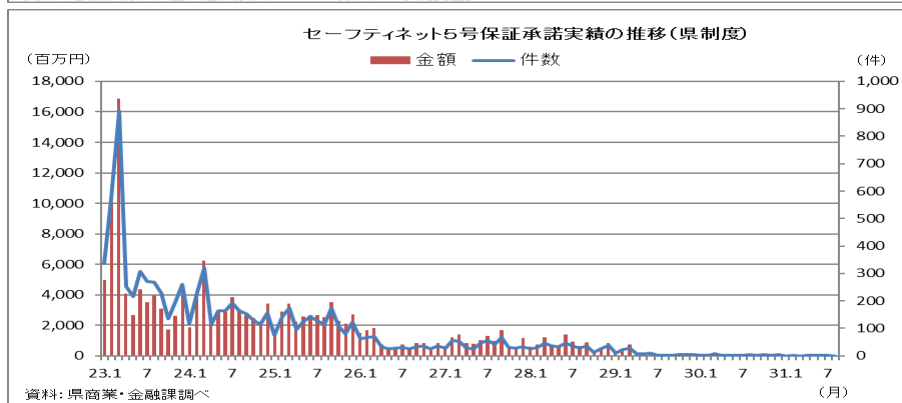
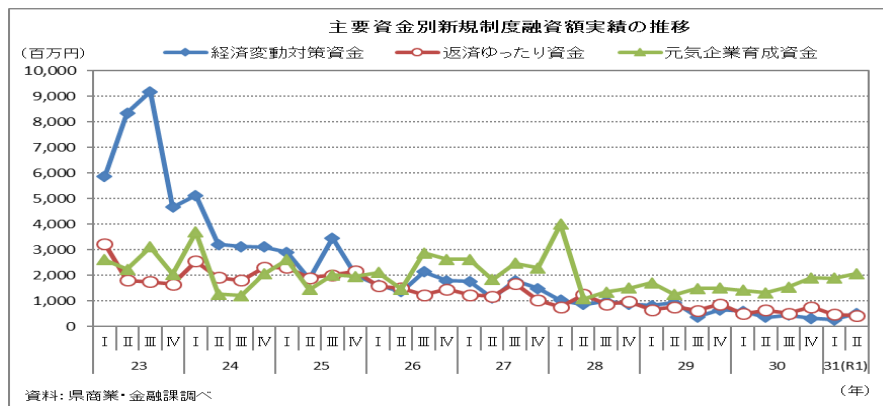
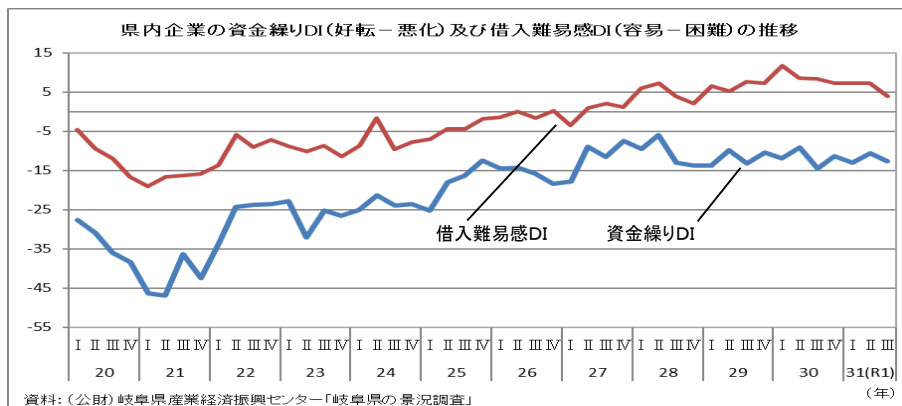
## 現場の動き

- ◆融資動向については、大きな変化はないが、事業者向けの融資は前年割れとなっている。
- ◆融資動向は、例年8月は穏やかに推移し、9月は増加するが、今年も傾向どおりの動きであった。
- ◆不安定な為替動向や、今後のサウジアラビアの影響による原油価格変動に懸念がある。
- ◆消費増税に関しては、10月以降、外食産業などで一時的な消費の落ち込みは否定できないが、年末商戦も重なるため、どう動くかはまだ様子見の状態。10月以降の業績の悪化は、要因の判断が難しくなるだろう。
- ◆中小企業にとって、働き方改革がまだ浸透しきっていない印象がある。(以上、金融)



# 資金繰り-2

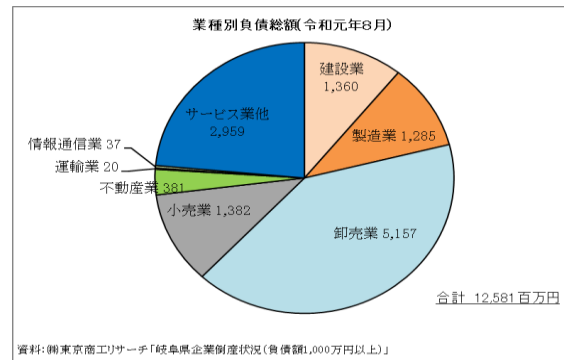
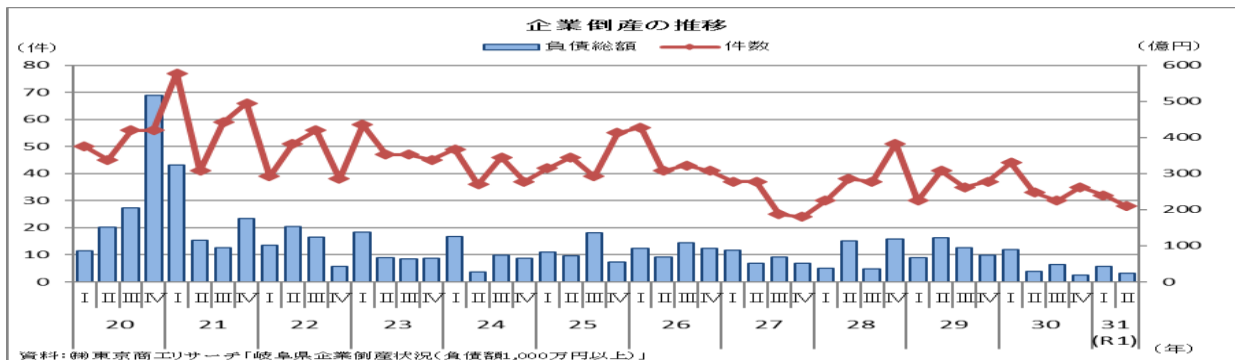
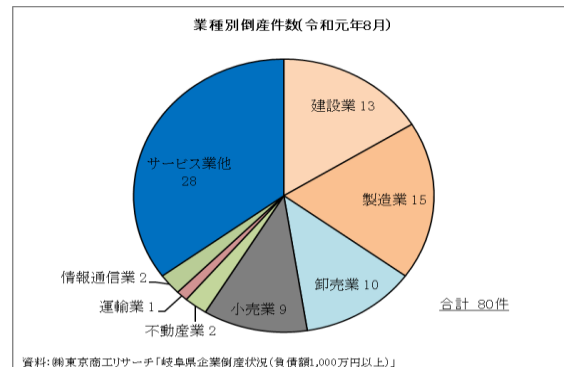
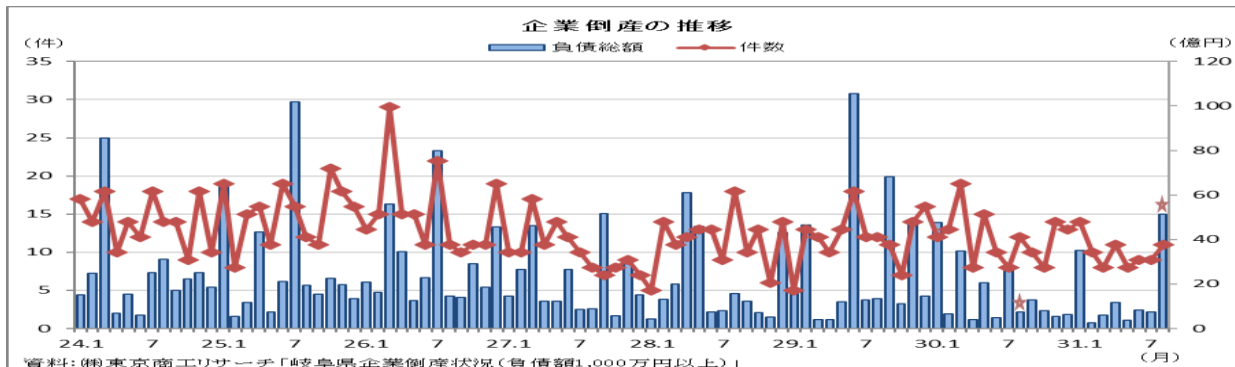
- 県内企業の7-9月期の資金繰りDIは▲12.7で、前期比▲2.2ポイントと悪化。同借入難易感DIは3.9で、同▲3.3ポイントと悪化。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で前年同期比▲32.5%と減少が継続しているものの、経済変動対策資金で同38.4%と3ヶ月ぶりに増加、元気企業育成資金で同57.4%と5ヶ月連続で増加となった。
- 8月のセーフティーネット5号保証承諾実績はなく、全体の利用としては、非常に低調に推移している。
- 8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は59件で前年同月比▲44.9%と2ヶ月ぶりに減少。金額は526百万円で同▲38.0%と2ヶ月ぶりに減少。



# 倒産

○8月の倒産件数は前月比2件増加の11件、負債総額は前月比4,403百万円増加の5,140百万円となった。

○1月～8月までの累計倒産件数は80件となり、前年同期の97件から17件減少。累計負債総額は12,581百万円となり、前年同期の15,404百万円から2,823百万円減少で推移した。



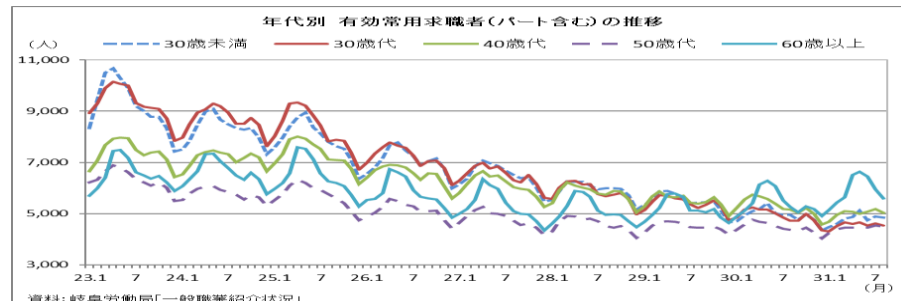
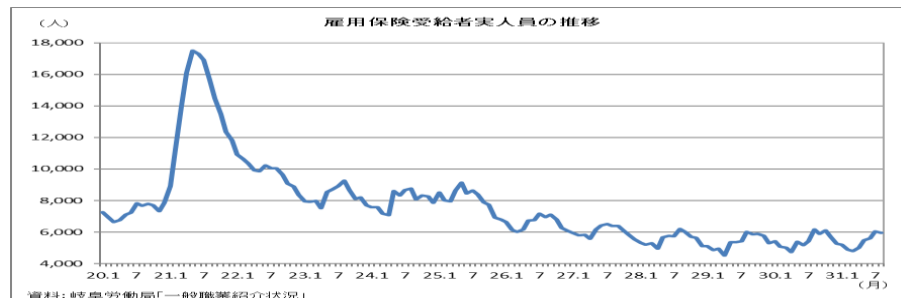
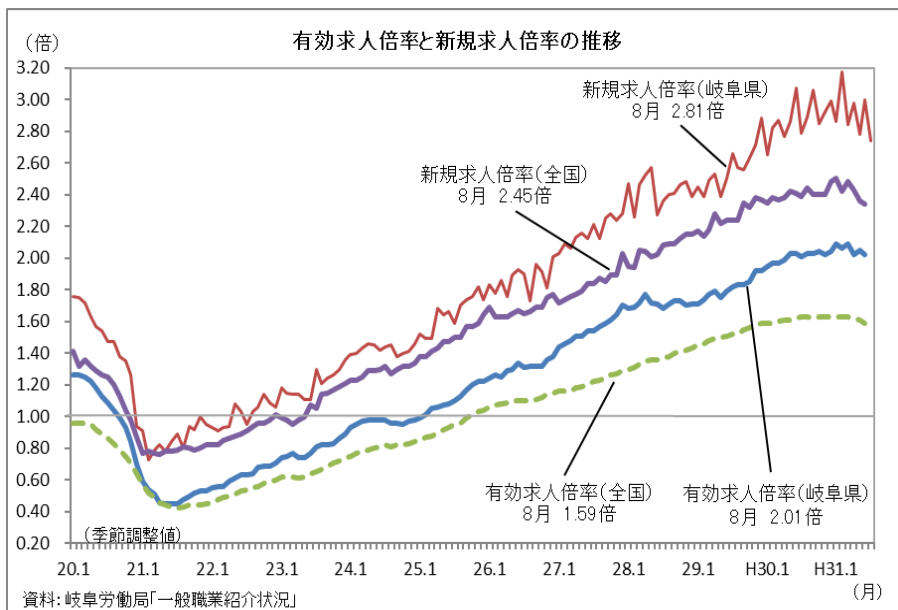
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆海外情勢の不透明感から各企業の警戒が強まっている中で、先行きへの懸念は月を追うごとに増加している様に見受けられる。国内景気は、輸出減速や設備投資意欲の低下から後退局面に入った可能性が高まっており、消費増税後は一時的に消費が落ち込むと予想される。
- ◆近時の倒産件数は10件前後で推移し、小康状態を保ってはいるものの、米中貿易摩擦や日韓関係悪化等から、今後、倒産件数は増勢に動き出す可能性は否定できない。

# 雇用

- 8月の有効求人倍率は2.01倍と前月比▲0.01ポイントと低下。全国で5番目の水準。
- 8月の新規求人倍率は2.81倍と前月比0.07ポイント上昇。

- 8月の雇用保険受給者人員は、前年同月比▲3.4%と減少し、5ヶ月ぶりに前年を下回った。
- 年代別有効常用求職者は、50歳代、60歳以上で前年同月比増加。



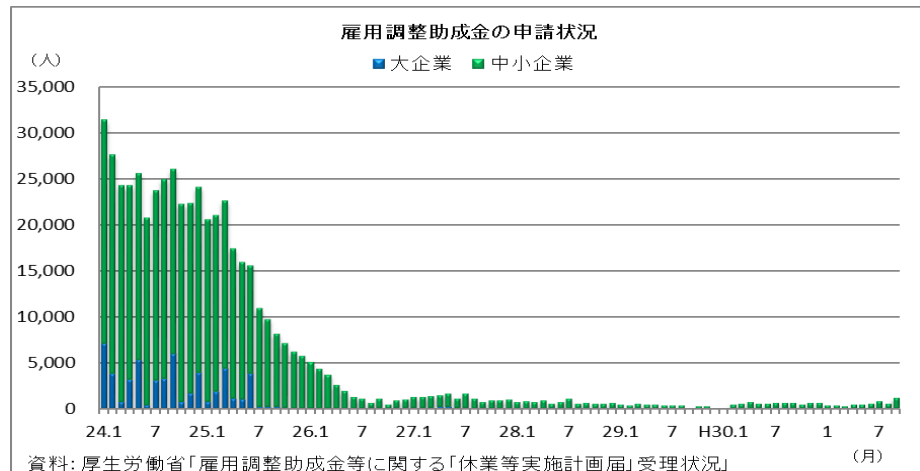
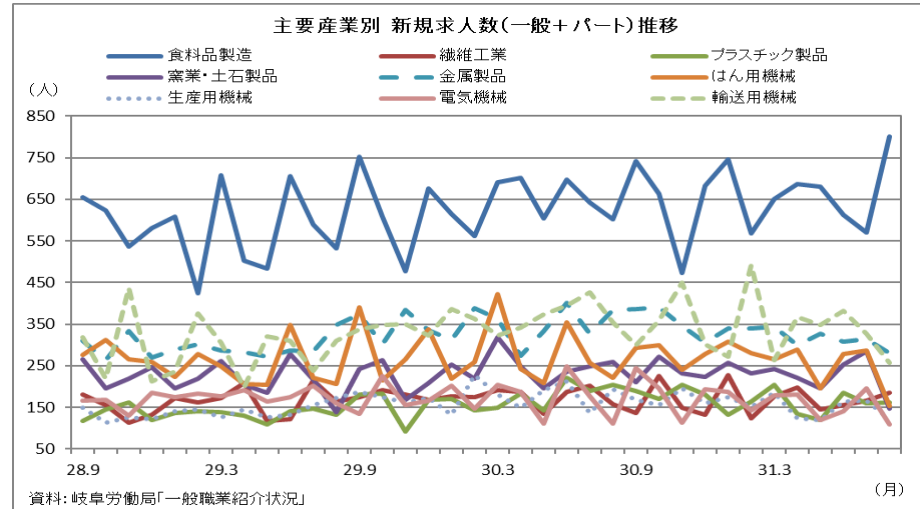
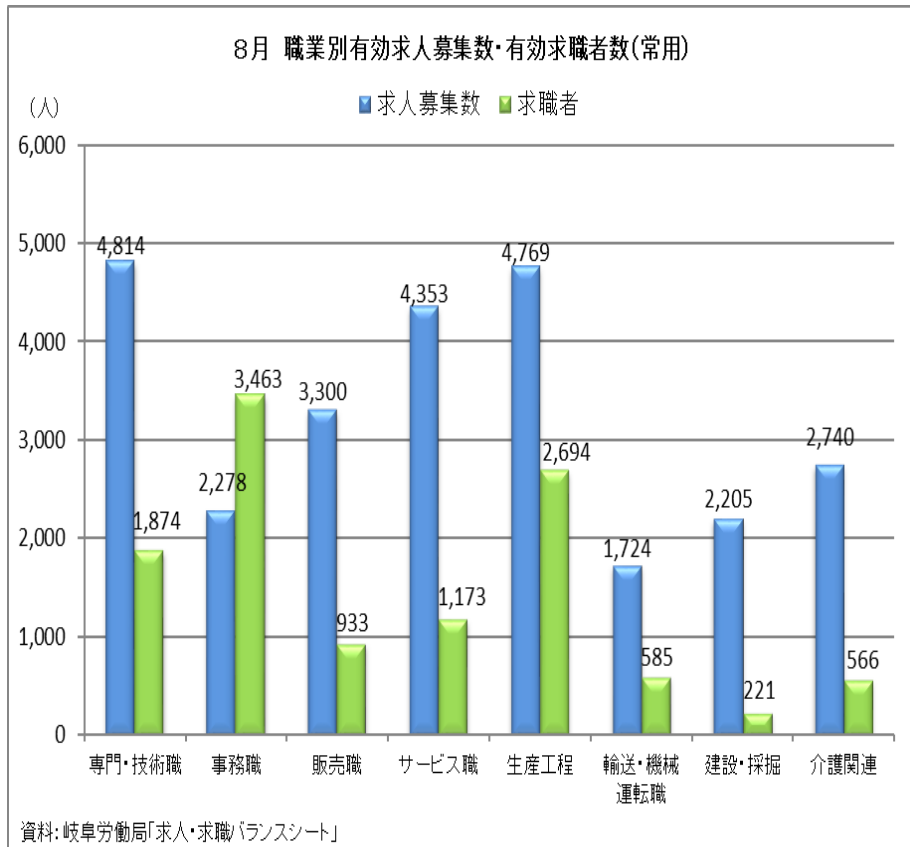
## 現場の動き

- ◆仕事量が落ち着いており、人数的な不足は感じていないが、技術者の高齢化が課題となっている。(輸送用機械)
- ◆今まで高卒者は製造ラインに配属していたが、人手不足への対応として、専門性の高い技術を身に付けさせることを目的に、設計などの高度技術を要する部署にも配置する方針が変わってきた。(輸送用機械)
- ◆9月は、派遣社員が2名減となっているが、生産効率が上昇しており、順調に受注を消化している。(輸送用機械)
- ◆受注状況が横ばいであることから、雇用人数について、派遣社員の期間満了等により調整する。(輸送用機械)
- ◆高卒を8名採用したが、地元の工業高校からは採用できなかった。(輸送用機械)
- ◆社員、パートともに増やしたいが、募集をしても応募がなく、慢性的に人手不足の状態。(食品)
- ◆生産量が減ってきていることから、喫緊で大きな不足はない。ただし、技術者の確保は課題。(アパレル)

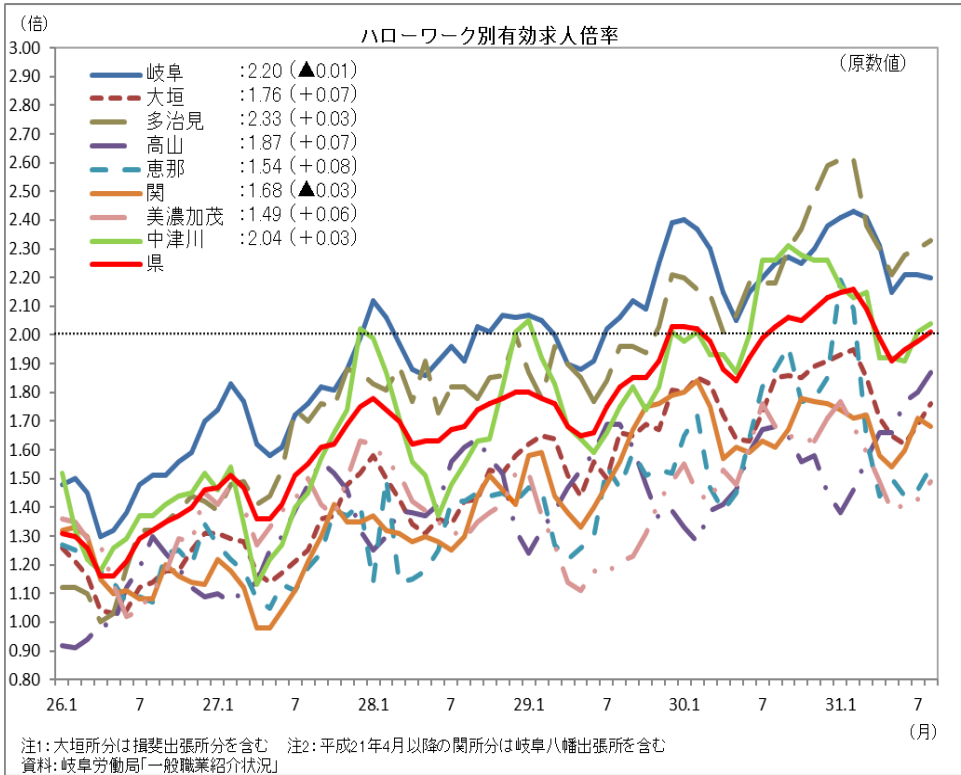
# 雇 用(職業別)

- 多くの分野において人手不足の状態。建設・採掘は求人倍率10.0倍、介護関連は求人倍率4.8倍となる等、特に顕著。
- また、販売職3.5倍、サービス職3.7倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.7倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 8月の主要産業新規求人数は、食料品製造で前月比40.5%と大幅に増加したものの、窯業・土石で前月比▲48.4%、はん用機械で同▲46.2%、電気機械で同▲44.1%と大幅に減少する等、多くの産業で減少が目立った。



# 雇用(地域別)



○8月のハローワーク別有効求人倍率は、岐阜、多治見、中津川が2倍超にて推移しているものの、岐阜、関では前月比で減少した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <窓口の様子> ※前月比

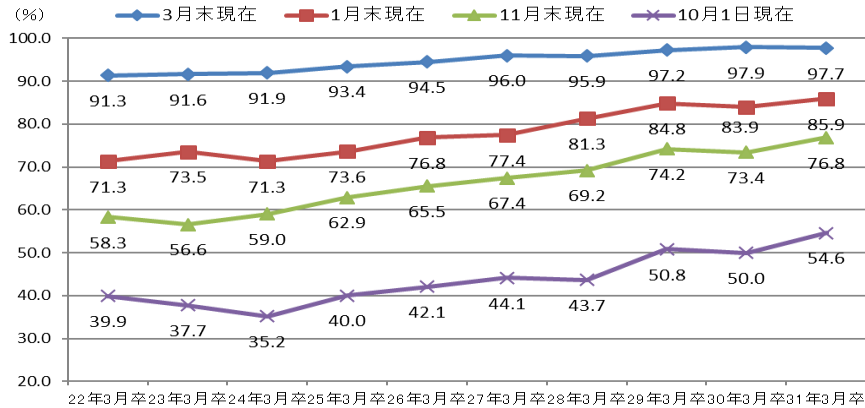
- ◆恵那以外は、混雑しているもしくは横ばい。



# 雇用(大学・短大新卒者の就職)

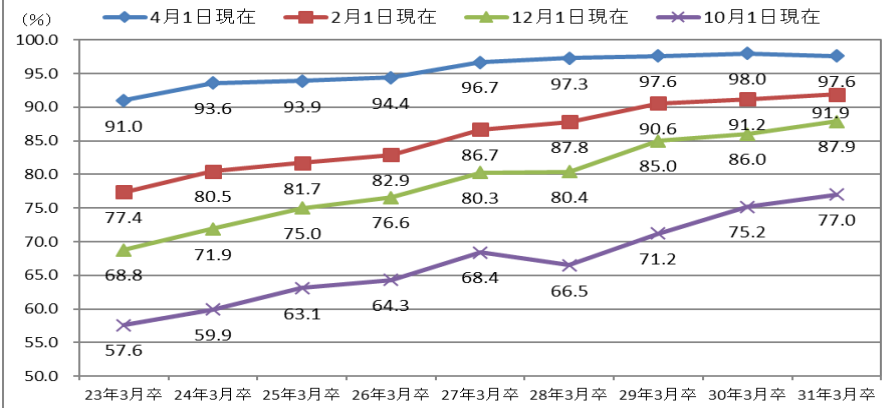
- 岐阜県の平成31年3月末時点の大学・短大卒業者(平成31年3月卒業)の就職内定率は、97.7%であり、前年比▲0.2ポイントと低下した。
- 全国の平成31年4月1日現在の大学・短大卒業者(平成31年3月卒業)内定率は97.6%であり、同▲0.4ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2020卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

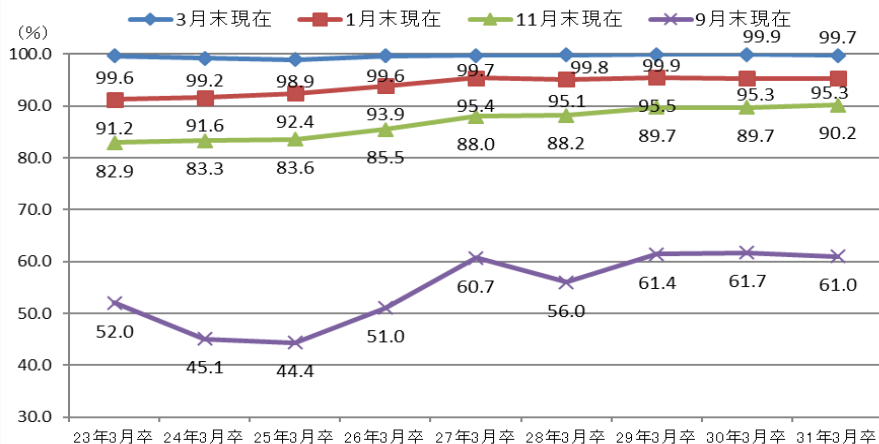
- ◆20卒については、相談室へ来る学生はかなり減っている。
- ◆20卒については、決まっていない学生に対し、ゼミや就職課の先生と一緒に支援していく。
- ◆20卒の内定率は、70%程度。企業からの求人は多いが、マッチングがなかなかうまくいかない。
- ◆21卒については、就職支援ガイダンスを例年通りの予定で進めていく。
- ◆21卒については、夏休みのインターンシップ情報を今後の就活支援に活かしていきたい。(以上、岐阜県内大学)
- ◆20卒の内定率は、85%程度で昨年比微増。決まっていない学生には個別に対応していく。
- ◆20卒について、内定率は8%程上昇したが、まだ決めかねている学生からの相談もある。
- ◆21卒に対しては、申込制のガイダンスを開始したが、申込数がかなり少ないため心配している。
- ◆21卒について、年々、就活の稼働量が落ちており、今年もさらに落ち込みが進むのではないかと心配している。
- ◆22卒に対しては、10月末からキャリア形成支援プログラムをスタートさせる。(以上、愛知県内大学)

# 雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の平成31年3月末時点の高校卒業者(平成31年3月卒業)就職内定率は99.7%であり、前年比▲0.2ポイントと低下した。

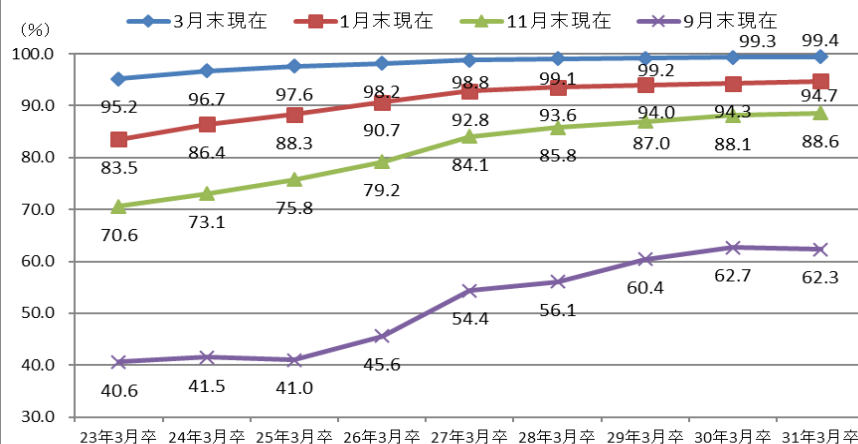
○全国の平成31年3月末時点の高校卒業者(平成31年3月卒業)就職内定率は99.4%であり、同0.1ポイント上昇した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



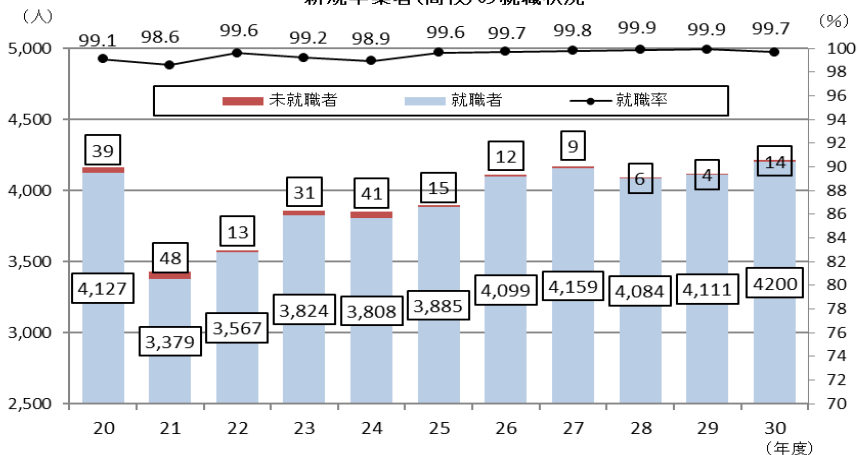
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



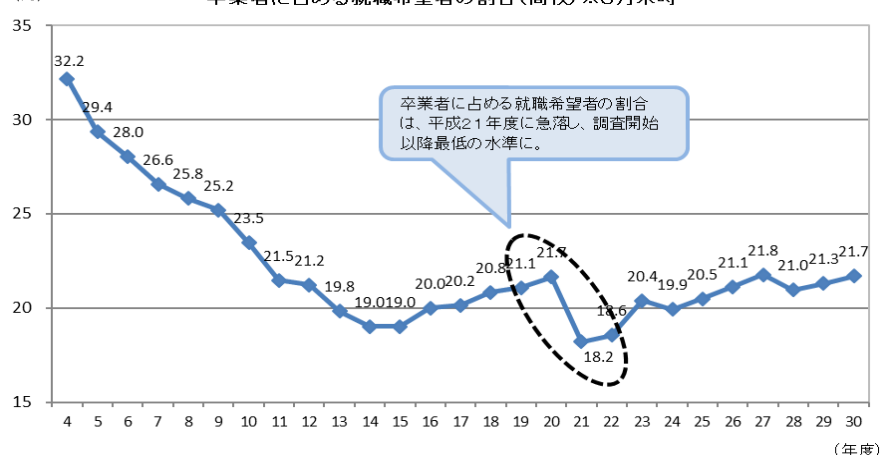
資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

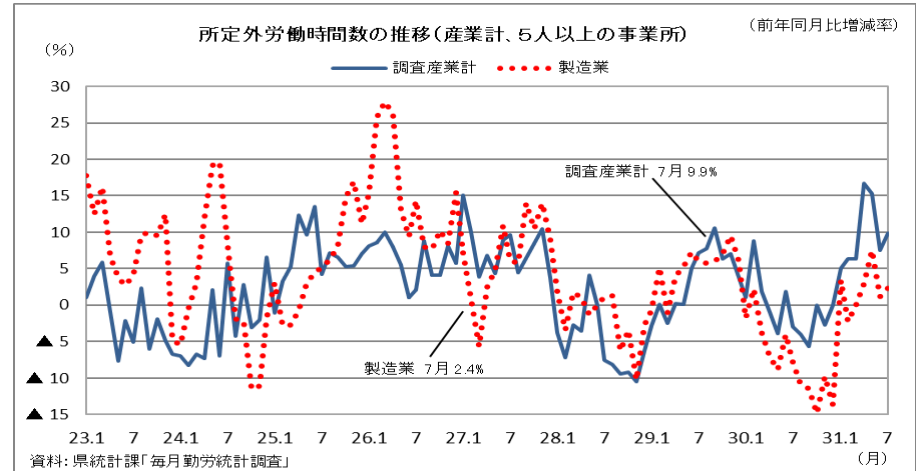
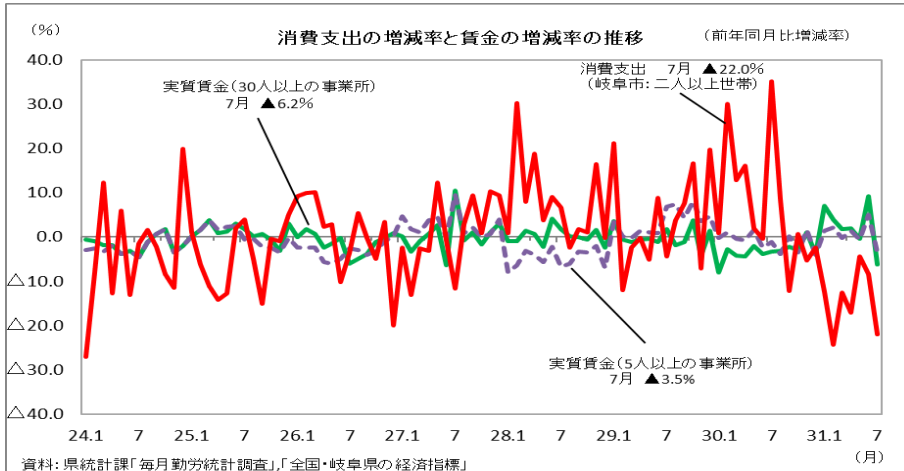
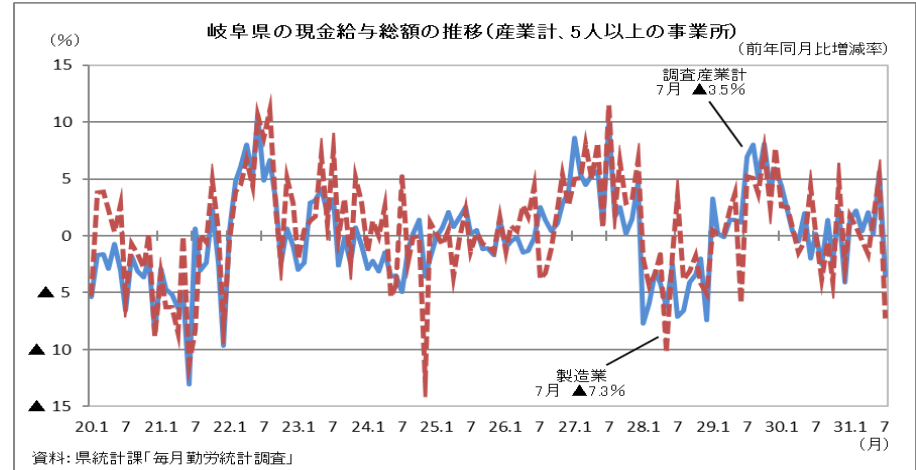
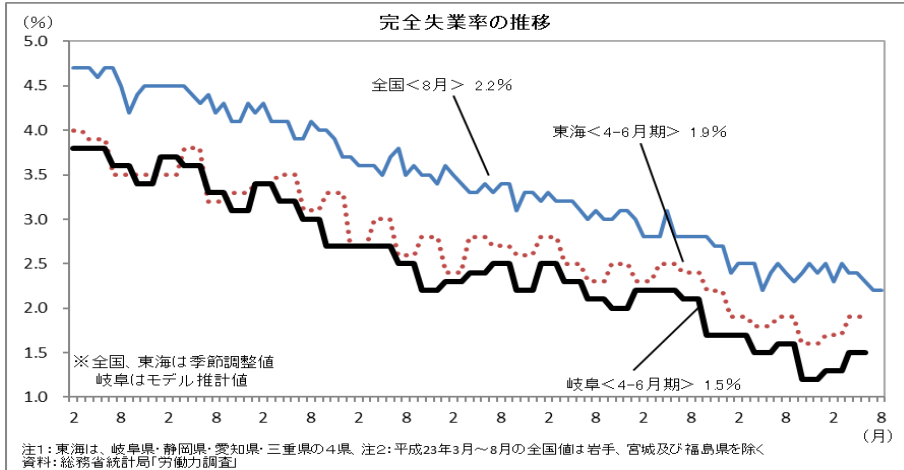
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の8月の完全失業率は2.2%と前月と同水準。岐阜県の4-6月期の平均は1.5%であり、前期比0.2ポイント増加。
- 7月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比▲3.5%、製造業で同▲7.3%と減少。
- 7月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比▲3.5%、30人以上の事業所は同▲6.2%と減少。消費支出についても同▲22.0%と9ヶ月連続の減少となった。
- 7月の所定外労働時間数は前年同月比9.9%増加した。



## <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、鉱工業生産指数では用機械や金属製品を中心に多くの主要産業で前月比増加した。ヒアリングにおいては、好調な受注を継続しているとの声も聞かれたが、中国経済の減速を中心とする海外の経済動向が影響し、売上の減少や受注環境の後退等といった声が徐々に聞かれるようになっている。
- 地場産業は、鉱工業生産指数で食料品や家具が前月比で低下したが、木材・木製品やパルプ・紙等は上昇した。ヒアリングにおいては、原材料費、燃料費の高騰や市場自体の冷え込み等から、依然として厳しい状況にある。
- 設備投資は、工作機械受注額については、国内向けは9ヶ月連続、海外向けは10ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、老朽化への対応や省力化、省人化を目的とした投資に前向きな声も聞かれた。
- 個人消費は、小売店の販売額については、家電大型専門店が前年同月比で大幅に増加し、全体としては2ヶ月ぶりに増加した。消費増税直前といったこともあり、大型商業施設では、駆け込み需要が目立った様子。
- 観光は、前年と比較し、休日の日数が2日多く、宿泊客数は前年同月を上回ったが、昨年リニューアルした施設の反動減の影響などもあり、観光客数は下回った。
- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、消費増税や海外情勢にかかる為替動向等、外部環境による企業への影響を注視している。
- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中で、依然として人手不足は慢性化した状態と言えるが、ヒアリングにおいては、受注量の落ち着きを主因として、人手不足感が薄まってきてはいるとの声も多くなってきている。